

【発行】大船渡仮設住宅支援事業
〒022-0004
岩手県大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL: 0120-628-638
E-Mail: ofnt_otoiawase@yahoo.co.jp
Web: http://ofunatocity.jp

はまらい

大船渡仮設住宅 支援員新聞

No.11 6月号
2013.



▲ 越喜来にて青山学院大学生と地元の方の交流

青山学院大学 4年
復興支援学生団体 Youth For Ofunato

代表 永田 光央さん

最初は大学の紹介がきっかけでした。子供の教育支

援という形で大船渡に派遣されたのですが、その中で震災以前から青山学院とチャイルドフアンドの関係が密であった事から、提携を組んで共に大船渡で活動する事になりました。

2011年7月から9週間に渡り、大船渡にてボランティア活動を始めた青山学院大学の学生達。その学生達が仲間を募って Youth For Ofunato (以下 YFO) という団体を立ち上げ、チャイルドフアンドと共に活動してきましたが、今年の3月からは独立して活動していく事に。今後どういった活動が続いていくのか、また学生団体だからこその出来る事について YFO 代表の永田光央さんにお話を伺いました。

訪れるたびに感じる 大船渡の温かさ

あの
人
に
インタビュー

Q どういった活動をされてきたのですか？

最初の頃は食器等の物資の配布を行いました。その後、仮設内のコミュニケーション形成の一環としてベンチ作成や長洞仮設団地での畑(ファーム)作り、仮設団地内での夏祭りのお手伝い

県仮設住宅カラオケ歌合戦 地ノ森仮設の男性が優勝！



▲「北国の町」を歌って優勝！

5月11日(土)、北上市のさくらホールにて「岩手県仮設住宅カラオケ歌合戦」が行われました。県内10カ所の予選を勝ち抜いてきたのど自慢の中から、大船渡町地ノ森仮設住宅にお住まいの黒澤和昭さん(64)が優勝しました。

このカラオケ大会はIBC岩手放送が主催。ゲスト審査員として大船渡出身の大沢桃子さんと、ステージゲストとしてもまね芸人のノブ&フッキーさんが来場し、会場を盛り上げました。大船渡からは、越喜来・杉下仮設住宅、大船渡・地ノ森仮設住宅、永沢仮設住宅よりそれぞれ2名が出場。総勢20名が参加し、当日は住民の方々も「応援団」として会場に駆けつけました。

優勝した黒澤さんは鶴岡雅義と東京ロマンチカの「北国の町」を熱唱。子供の頃から歌が好きで、周りの人からよく上手だと言われていた黒澤さん。「本番では緊張も無く声もよく出て、歌っていて気持ちよかったです」ととてもリラックスして臨めたようです。

「応援してくれる仮設住宅の住民の皆さんのために歌った」とのことです。嬉しい結果となりました。黒澤さんには大きなトロフィーと賞状、副賞の旅行券が贈呈され、地ノ森仮設団地にも「仮設団地に必要なもの10万円分」が贈られます。



▲ 大きなトロフィーを持つ黒澤さん

Q 今後どのような活動を予定ですか？

まずは今までの活動を現地の方の協力の元に、継続して行っていきたくと思っています。今の所具体的に上がっているものとしては、8月初頭に行われる三陸・大船渡夏まつりへの協力、ポ

大船渡は、どんなところですか？

大船渡に来て感じたのは、人が温かいという事。訪れるたびに皆さん明るく、温かく迎えてくれます。

現在都内で暮らしているのですが、東京にいるよりも大船渡にいた方が楽しいし、落ち着けるんです。帰

ってくる場所というかも、う故郷ですね。この6月からは休学して、大船渡に移り住もうと考えています。大船渡へ来た YFO の皆さん、ここが大好きになっています。だからこそこうやって何度も大船渡を訪れるのだと思います。

将来的には現在行っている支援という形を通して、大船渡の方々と都市部の学生など、人と人とを繋げるという交流の促進を行っていき、日本のいいところが詰まっている大船渡という街を広めていけるように活動を続けていきたいですね。

支援員ニュース おじゃましまーす

三陸町 仲崎浜仮設団地 やっぱりお茶っこが楽しい!



▲ 仲崎浜の支援員。談話室は手作りです。

今回は三陸町仲崎浜仮設団地のご紹介です。現在は使われていない崎浜小学校のグラウンドにある仲崎浜仮設団地は、全部で35世帯の団地です。

住民の方々が談話室に集まると、まるで吉本興業の人たちがいるみたいなの！と笑いながら教えてくれる支援員。いわゆる崎浜弁で、怒っているようにしながら面白い話を話すのだそうです。普段も住民の方々が談話室の窓をコンコンと鳴らし、支援員に差し入れをくれたりして、この団地の人や雰囲気がとてもいいと話してくれます。

今ではとてもにぎやかになりましたが、このようになるまでも少し時間がかかりました。

支援員が声掛けやイベントの開催などに力を入れ、住民の方々が集まりやすい環境を徐々に整えていったため、現在のようない関係ができました。

ラジオ体操 やりましょう

仲崎浜仮設では3月から、三陸地区サポートセンター「さんそん」の主導でラジオ体操を始めました。越喜来の杉下仮設団地でラジオ体操が行われていたのを見て、仲崎浜でも企画。始まった当初から大勢が参加し、ラジオ体操の音につられて出てきた仮設の近所の方々や、みなし仮設に住んでいる方々も一緒に参加するようになりました。



▲ 今日はラジオ体操の後に、みんなで花見です

もあり、毎日参加した方にはなんと、自治会チャレンジを利用した賞品が送られます。

ラジオ体操が終われば今度は談話室でお茶っこ。もちろん近所の方々も一緒です。お互いにお菓子や漬物などを持ち寄っては、あの吉本興業のような面白い合戦が繰り広げられます。

今では住民の方から「なにがやらないの？」とイベントの催促をされるそう。「でもなにやりたい？と聞くと、お茶っこでいいって言われるの」だそうです。

今月のスマイル

どこに飾ろうかな？



▲ リースができました♡

を問わずいろいろな材料で作れます。またドーナツのよな丸い形を想像しますが、ハート型や三日月形など、い

アという色をつけたヤシの木の皮などを使い、ちよつと変わった形のリースを作

成。テレビなどにも出演されている講師の先生の話を、皆さん興味深く聞いています。いざ作り始めると皆さん真剣に手を動かす、先生が話しかけても、「うん、そうそう」と半分上の空です。

青いフサフサのラファイアをリボンの形にして、中心にバラやアジサイなどのドライフラワーを飾りつけ、とても華やかなリースが出来上がりました。材料は同じでも、みんなそれぞれ印象が違って素敵です。参加した方々は自分と他の人の作品を見比べながら「どこに飾つ



おおふなの記憶

ピースはめらい

今は仮設住宅が設置されている下権現堂公園の藤棚。見ごろとなった藤の花が、辺りの山々も薄紫に染めています。

編集後記

スマイル記事で掲載したリース作りの先生は、NHKのおしゃれ工房などで講師として出演されている、野口多鶴子さんという方です。私がイメージしていた方とは全く別人で、とても若々しくて、ほわっとした雰囲気の漂う方でした。あの若々しさでお孫さんもいるということでWびっくり。一方カラオケ優勝者の黒澤さんの取材で地ノ森仮設に伺った時には、洗浄した被災写真の展示が行われていて、住民の方が知り合いの写真を見つけては持ち帰っていました。まだまだ沢山ある写真の中には笑顔の家族が写っているものも多く、なんとも言えない気持ちがこみ上げてきました。(S)

ご意見・ご感想は、こちらまで。
大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL : 0120-628-638
E-Mail : ofnt_otoiawase@yahogroups.jp

岩手県立図書館で震災資料展示イベント

盛岡市の岩手県立図書館では4月1日から5月31日まで、「震災関連資料コーナー本オープン一周年記念イベント」が行われました。

始しています。この展示が一周年を迎え、「報道」をテーマに、震災後どのような報道がされていたのかを知ることのできる催事が企画されました。

震災直後から、震災の記憶を風化させる事無く後世に引継ぎ、今後この経験が役立つようにとの思いから震災に関連する新聞や写真集、チラシなどを収集し、昨年4月1日から展示を開

収集している資料の内容は岩手県内の震災に関する新聞、写真集やチラシ。被害情報や被災地支援、復興支援等の情報が掲載されているもの等です。イベントコーナーには震災直後からの新聞などが並べられています。



▲ 展示コーナー。新聞がずらっと並んでいます

利用者が多く、外国の方が写真集を見たり、小学生が「被災地支援に関する本はありませんか？」と尋ねてきたこともありました。またiPad(タブレット型コンピュータ)を操作して

資料を見ているお年寄りもいるのだとか。被災地で事業をするため津波の浸水区域が知りたいという方もいらしたそうです。

関連資料として、実はこの「はまらい」も置かせていただいております。県立図書館で読むことができます。

震災関連コーナーは常設しており、今後はポスター等の展示イベントや企画展示も行う予定だそうです。
◇岩手県立図書館
電話 : 019-606-1730
http://www.library.pref.iwate.jp/



▲ はまらいも発見！しっかりファイリングされています